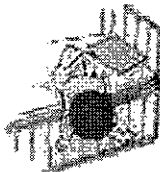


3~4か月児 健診用

子どもの事故はちょっとしたしじりに気づりて防げます。事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

1. ベビーベッドの柵はいつも上げておきましょう。

赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思っていてベッドの柵を下げたままミルクを作りに行ったり、オムツを取りに行ったり、赤ちゃんから目を離したすきに転落事故は起こっています。赤ちゃんをベビーベッドに寝かせるときは必ず柵は上げておきましょう。



2. ソファの上に赤ちゃんを一人で寝かせたままにしない。

3か月くらいになると、赤ちゃんは手足をバクバクさせ動き、顔の方へずりあがったりします。5か月を過ぎると早い赤ちゃんは寝返りが打てるようになるので、ソファなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。赤ちゃんは動くものだということを忘れずに、高いところに寝かせたままにしないようにしましょう。



3. 階段の上下階には転落防止用の柵を取り付けましょう。

ハイハイが始まると探索行動が活発になり、階段や段差があるところでは目が離せません。ちょっと目を離したすきに階段を上り下りすることができないよう、階段の上下両側に柵を取り付け、暗め忘れのないようにしましょう。玄関や緑廊など高い段差がある場所には一人で行けないようにしておきましょう。



4. テーブルなど家具のとがった角には、コーナークッションなどでガードをしましょう。

赤ちゃんは頭が重いの、しっかりとお座りができない間は、バランスを崩して前のめりをしたり、後ろに倒れたりして、テーブルの角や床のおもちゃに頭やおでこをぶつけてしまいます。つかまり立ちや短い歩きの頃は転倒がつきもので、転んだ先の家具や柱の角に、顔や口をぶつけて打撲したり切傷したりします。家具はなるべく丸みのあるものを選び、角にはクッションテープなどを取り付け、ぶつかったときの衝撃を和らげる工夫をしておきましょう。



5. 子どもの椅子は安定のよいものを使用しましょう。

椅子に座っているとき、テーブルを足でけた勢いで赤ちゃんが椅子ごと倒れたり、椅子によじ登って転落したり、ベビーカーやショッピングカートからいきなり立ち上がったって転落してしまう事故があります。



子ども用の椅子は安定のよい倒れにくいものを選び、ハイチェアやベビーカーに座らせたらず必ず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。

6. タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんは大人が口にくわえるタバコに興味があり、手の届くところにある物がつかめるようになると誤飲事故が多くなります。タバコや灰皿は必ず手の届かない所に置きましょう。また、液体に溶けたニコチンは吸収が早く、一口飲んだだけでも危険なので、飲み残しの缶を灰皿代わりに使用するのはいけません。



7. ボタン電池や硬貨、指輪などの小物は手の届かない所に片付けましょう。

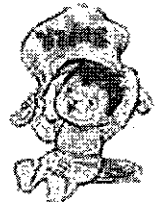
赤ちゃんは何気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。赤ちゃんの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込んでしまいます。



異物を飲み込んだ場合、普通48時間以内に便と一緒に排出されますが、心配な場合はかかりつけ医に相談しましょう。ボタン電池を飲み込んでしまった場合はすぐに病院を受診しましょう。部屋の中の小物は整理整頓しておき、自宅だけではなく、実家やよその家に出出した時にも注意しましょう。

8. ビニール袋は手の届かない所に片付けましょう。

シールやラップをはかして選んでいて、飲み込んでのどに詰まらせてしまったり、ビニール袋を顔からかぶって、鼻や口をふさいでしまうなどの事故が起こっているため、スーパーやコンビニ、クリーニングのビニールの袋には注意が必要です。



また、歩けるようになると、壁にかけてある袋やひもに首をかけて窒息してしまう事故も起こっています。ビニール袋やラップは手の届かないところに収納し、おもちゃ代わりにして遊ばせないようにしましょう。

9. 母乳やミルクを飲ませた後はグップをさせながら寝かせましょう。

赤ちゃんは母乳やミルクを飲んだ後、排気が十分でないと乳をもどし、気管に入ると窒息してしまいます。母乳やミルクを飲ませた後はグップをさせてから寝かせ、寝かせてから10~15分は気をつけて見ているようにしましょう。



母乳食が始まったら食べ物は硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え直させましょう。

10. ポットや炊飯器は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

赤ちゃんはハイハイができるようになると、床に置いてあるポットにつかまり立ちをしてひっくり返したり、電気コードを引っ張ってお湯をこぼしたり、炊飯器の蒸気の噴出し口に手や顔を近づけてやけどをしてしまう事故が多くあります。

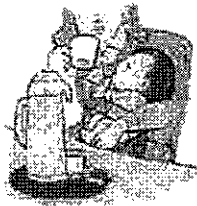


ポットや炊飯器、熱いお湯等は赤ちゃんの手の届かない所に置きましょう。

ポットにはロックをかけ、余分なコードは巻き取っておきましょう。

11. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなどは赤ちゃんの手の届かないテーブルの中央に置きましょう。

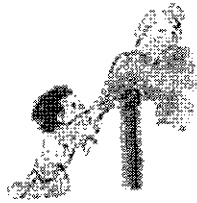
赤ちゃんは何でもつかめるようになると、熱いものにも平気で手をのぼし触れてしまいます。お母さんが食事の準備中、ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや鍋を触ったり、お母さんが飲もうとしたコーヒーをひっくり返してやけどをしてしまう事故があります。



また、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うのは危険です。抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑って落ちたりしないとは限りません。熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置き、赤ちゃんを抱きながら食べたり運んだりするのはやめましょう。

12. テーブルクロスは使用しなさい。

テーブルクロスをかけていると、赤ちゃんが食事中引っ張って、熱い食べ物や飲み物がこぼれてやけどをしてしまったり、つかまり立ちをするときに引っ張って、コップやお皿、ジャムのビンなどが落ちてきて打撲をしてしまいます。



子どものうちは、テーブルクロスの使用はやめましょう。

13. アイロンは使用後、赤ちゃんの手の届かない所に置いて冷ましておきましょう。

使い終わったばかりのアイロンの温度は90度です。使用時だけではなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましておきましょう。



14. ストープやヒーターは赤ちゃんが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ストーブの近くに寝かせておいて、寝返りをしたときに手があたったり、ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストーブにぶれてしまったりします。赤ちゃんの皮膚は大変弱く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

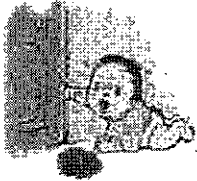


熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。

ストーブの上にやかんは置かないようにしましょう。また、体温より少し高いくらいのもので、長時間あてたままにすると低温やけどを起こすことがあります。赤ちゃんはストーブ・ヒーターの熱が直接あたらぬようにして寝かせましょう。こたつや電気カーベットには長時間寝かせないようにしましょう。

15. ドアのちょうつがい部分には指が入らないようにガードをしましょう。

ドアのちょうつがい側に指をはさむと大きな圧力がかかるため、指を骨折したり、切断してしまうような大きな事故になります。赤ちゃんの小さな手はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまうので、特に玄関などの重さのあるドアのちょうつがい部分には注意が必要です。



ドアを開閉するときは、赤ちゃんの手の位置を確認しましょう。ドアのちょうつがい側には防止グッズなどでカバーをし、ドアを

開けておくときは、風で急に閉まらないようにドアストッパーなどで固定しましょう。

16. テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープの入口は、赤ちゃんが手や指を入れないようにガードをしましょう。

テープが出たり入ったりするビデオデッキの挿入口、赤ちゃんがおもちゃを中に入れて遊んだり、つい手を入れてみたくなるところです。手を入れて抜けなくなったりしないように、カバーでおおえば手をはさむ危険が防げます。



テレビ台のガラスの扉やビデオデッキのテープ挿入口には、ガードをしておきましょう。

17. かみそり、包丁、はさみなどの刃物は使用したら必ず片付け、取り出せないように引き出しにはロックをしておく。

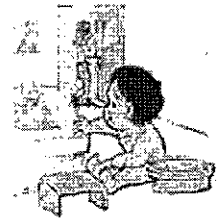
まな板の上に置いてあった包丁を取ろうとして床の上に落ちてしまったり、洗面台のかみそりを握ってしまったら、赤ちゃんはこれから大人が使っている物に興味を持ち、真似をして自分でも使ってみようとしています。



刃物を使用したらすぐ収納場所に片付ける習慣をつけておきましょう。

18. 入浴中の赤ちゃんを一人にしたままにせず、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

入浴中、支えなしに座れるようになったばかりの赤ちゃんを一人にして湯盆を取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間、浴槽につかまり立ちをさせておいたら、よじ登って濡れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。



浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の赤ちゃんからは目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

19. 一人で浴室に入れられないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

じっとしていることが少なく、一人でもよちよち歩いていってしまう1歳ごろ。掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。



浴室のドアは開けっ放しにせず、カギをかけて自由に出入りできないようにしておきましょう。

20. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

赤ちゃんを抱いて車に乗るのは危険です。車が急に止まったり、衝突すると、腕から飛び出し、衝撃をまともに受けてしまいます。たとえゆっくり定速でも衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。



車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。